

社会生活 人との関わり(1年生)

思いやりをもった他者との接し方

～あいさつの定着と共感的態度を育てる工夫～

小出特別支援学校川西分校(高等部) 中沢 誠

単元のねらい・目標

- 人との関わりの基本はあいさつであることを理解し、正しいやり方の定着を図る。
- 相手の立場に立ち、状況に応じてどう考え、どう行動するかについて考える。

思いやりをもった他者との接し方(共感的態度)

単元・指導の工夫①

あいさつの取り組み

①必要性の理解

- 自分から関わる自分から心を開く
- コミュニケーションの入り口
- 印象のよさを相手に与える

②正しいやり方

- 模範の提示、動きの確認
- 細かな点まで注意し、相手を替えて繰り返し練習
- 笑顔、元気な声、自分から先に、相手を見て



③積み重ねと実践

- 日頃のあいさつの励行
- 校外での教育活動(校外学習・職業技能など)
- 校内実習・現場実習での実践

生徒の実態

思いやり(共感的)行動についてのアンケート

- ① 友達をほめたり、よいところを見つけることができる。90%
- ② 友達が声援を送ったり、喜びや辛さを一緒に感じる。85%
- ③ 友達が失敗した時は、励ましたり、慰めたりできる。85%
- ④ 友達が失敗した時に、必要に応じて見守ることができる。85%
- ⑤ 困っている友達に声を掛けたり、助けたりできる。75%
- ⑥ 相手の嫌がることを言ったり、しない。67%
- ⑦ 不当に批判されている友達をかばうことができる。58%



○お互いの頑張っていることや、長所を感じ取る特徴があります。かばうという行動は、勇気や強い正義感が伴うので難しいです。一部に、相手の嫌がることをしたり、言ったりする人がいることが痛めます。

単元・指導の工夫②

場面に依りて取るべき思いやり行動について考える

うまいかなかった友達に

悪口を言われた友達をかばう

友達とのトラブル

- 「そういうことを言っはいいないんだよ。」
- 今度は上手くいくようにこつを教える。
- 「気にするなよ、ほくもミスしたし、今度は頑張ろう。」

- 「頑張っているだから、そんなこと言わない方がいいよ。」
- 後で先生に伝える。
- ずっと黙っている。

- 「半分ずつヨーグルトを食べなよ。」
- 「Cさん、負けたら素直にゆずりなよ。」
- 「譲ればいいじゃん、赤ちゃんじゃないんだから。」

成果と課題 ①

○あいさつは大事

- ・とてもそう思う 85%
- ・そう思う 15%
- ・そう思わない 0%

○あなたのあいさつは？(自己評価で)

- ① 笑顔で明るく！ 60%
- ② 元気な声で！ 55%
- ③ 自分から先に！ 60%
- ④ 相手を見て！ 60%



○あいさつが大事だということはよく理解しています。でも、定着となると自己評価で半数少しといった状況です。○現状としては、あいさつの定着が見られる人と、なかなか身に付いていない人の差が見られます。定着の向上を目指し、今後も場面、場面の取り組みを強化します。

成果と課題 ②

思いやり(共感的)行動とは？

- 優しくしたり、困っている人を助けたりすること。
- 慰める。励ましてあげること。
- 人の気持ちを考え、話したり、行動したいすること。
- 相手の気持ちを理解し、そして、興味を持ってあげること。
- あいさつをすること。
- 意地悪をしないこと。

- 相手の身や状況に立って考える、声を掛けることの大切さが感じられます。行動を客観的に把握するのは難しいです。
- 学習を深めたり、同一のアンケートを取る等、時間を費した生徒の変容の見取りができませんでした。